

広報 たかのす

平成2年

3月1日

№.667

発行日 毎月1日・15日

編集と発行 鷹巣町役場総務課広報秘書係

〒018-33
秋田県北秋田郡鷹巣町花園町19番1号

TEL 0186(62)1111
FAX 0186(63)2586



風の子たちの 歓声がひびく

“子供会の交流と融和をはかり健全な育成を。”と、2月12日に児童公園で「第7回雪っまつり」が行われました。雪不足で予定していた雪像コンクールは中止になったものの、的あてや、綱引きなどに集まった約50人の子供たちは歓声を上げました。お昼は、お母さんたちが作ったうどんに舌鼓をうち、楽しい一日となったようです。

人口と世帯数

(住民基本台帳による)

1月31日現在	(前月比)
総人口	24,209人 (9人減)
男	11,745人 (9人減)
女	12,464人 (増減なし)
(出生	17人 転入 35人)
死亡	23人 転出 38人)
世帯数	7,306世帯(3帯減)

4月1日の操業に向け

広域ごみ焼却場が試験稼動中！

「総事業費20億円の大プロジェクト」

鷹巣阿仁広域市町村圏組合が大向地内に建設を進めてきたごみ処理施設（一、一八三・五六平方メートル）が四月からの本稼動をひかえ、試運転を開始しました。ひときわ目を引くエントツと最新の機材システムを導入した焼却場は、オートメーション化され集中管理方式。これまで自治体ごとに処理されてきたごみは、一施設で可能となりました。



焼却場の中はパイプラインが走り、まるで工場のような様子

『混ぜればごみ、分ければ資源』

建設中のごみ処理施設はごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設、最終処分場の三施設からなり、三施設を合計した事業費は約二十億円のビッグプロジェクトです。

このうち、ごみ焼却処理施設は昭和六十三年九月に約十一億四千万円で着工。本体工事はすべて完了し、二月六日から試運転を始め、機械のチェック、職員の慣熟訓練などが行われています。

焼却場は大向地内の農免農道沿いで、合川町との町境にあり、ライトクリームの外観は清潔感が強調され、内部はすべてオートメーション化され、ひときわ高いエントツが目を引きます。

焼却炉は十六時間あたり三十トンの処理能力を持つ炉を二基備え集中管理方式。中央操作室には、主要箇所を監視するモニターテレビが三台備えられる、ひと目で燃焼状態がわかるシステム。

また、トラックで運搬されたごみは地下八メートル掘り下げ

られたピットに貯められ、クレーンで焼却炉へ。灰はベルトコンベアで常時搬出され、煙は有毒ガスなど完全処理。電気集じん機を使い、シンボルともなっている高さ五十九メートルの巨大なエントツから排出されます。

一方、不燃ごみや大型のごみを処理する粗大ごみ処理施設（五〇三・六二平方メートル）は焼却場に併設され、昨年七月から五億九千万円の事業費で着工。現在九十パーセント以上の進捗率で、年度内完成を目ざし工事が急ピッチで進められています。

一日当たり三十トンの処理能力を有する施設は、破砕機を備え鉄、不燃物、可燃物、アルミニウムなどを機械選別するものです。

焼却後の灰を捨てる最終処分場は、事業費三億円が見込まれ、今後十年間使用可能な場所を選定したい意向で、メドがつけば平成三年度にも着手する方針です。

ごみ焼却場が本格操業しま

すと、いままで町村バラバラであったごみ処理が一カ所で効率よく、しかも安全に行われることとなります。

四月から収集日程が変わります

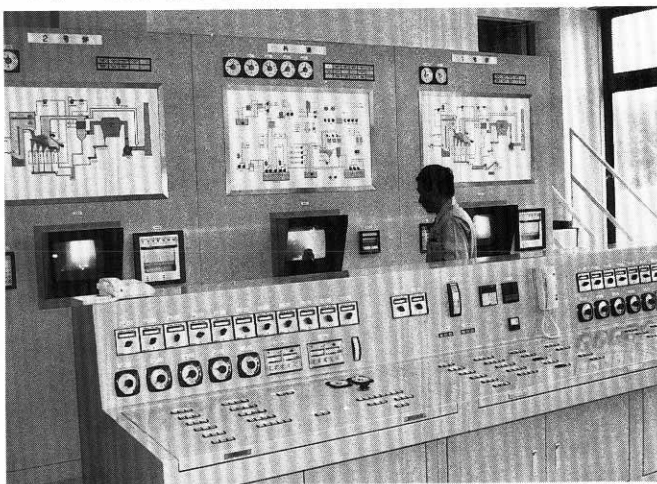
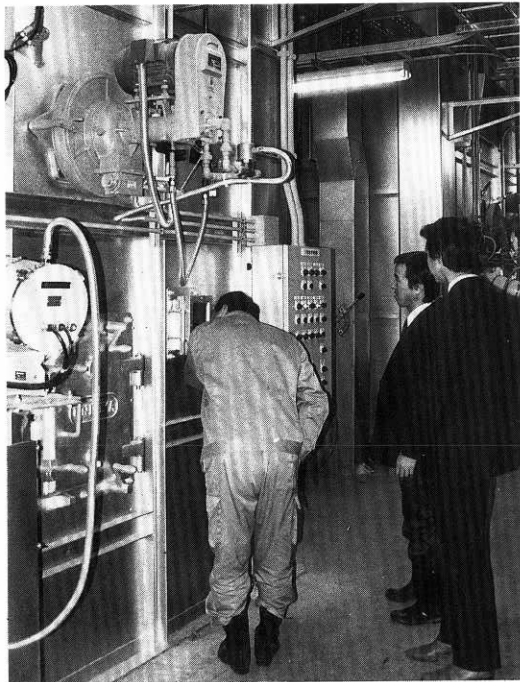
当町の各家庭から出されるごみの量は、平均三十三ト、年間では一万ト以上ものごみが焼却場に運ばれ、その量は年々増加しています。ごみは少しの工夫で量が減り、貴重な資源として再利用できますのでご協力ください。

保健課では、ごみの出し方について次のような呼びかけをしています。燃やせるごみは▽生ごみの水をよくきって出すこと、▽木くずや紙類は四十五センチ以内にこん包すること、▽金属、陶器、ガラス類などの不燃ごみを混入させないこと、▽商店など営業用ごみは自己処理する一などです。また、四月一日の本稼動にともない現在のごみ収集日程が変更になりますのでご協力をお願いします（三月十五日号に掲載予定）。

みんなでルールを守り、きれいな町づくりを進めたいものです。

◀炉の中は出してはいけないビンやカンの残がいが「山」となっています。みんなでルールを守りましょう

▼すべての工程がひと目でわかる中央操作室



■1日(木) 鷹巣町林業振興協議会。この協議会は、第三次林業構造改善事業の今年度まで実施した事業の報告と、今後の事業計画を説明し各委員より事業に対する意見等を集約した。良質材生産のためにも除・間伐、作業道等の整備が望まれる。

■2日(金) 合川高校組合議会に出席した。

■3日(土) 沢口地区自治



町長日誌

出川禮一

2月1日～15日

■7日(水) 北秋田郡町村会定期総会に出席した。

■9日(金) 秋田県自治会館理事会及び評議会に出席した。

■10日(土) 鷹巣阿仁広域市町村圏組合議会に出席した。

■11日(日) 鷹巣町長杯県北選抜中学校柔道大会に出

会と町長を囲む新春の集いは、沢口林業センターで部落会長、団体長等四十人あまりが出席。主として地区の町事業に係る要望、意見を聴いた。また課題の県北空港に対する質疑も多く関心の高さが感じられた。

この種の会合は各地区年一回行うものである。

■4日(日) 町生涯教育学習発表交流会に出席し、あいさつを述べた。

■5日(月) 6日(火) 鷹

席しあいさつを述べた。この日、中央公民館で建国記念を祝う会に出席。さらに午後から、合川町で開催された県北空港早期実現町民総決起大会に出席して、激励と感謝のあいさつを述べた。

■13日(火) 臨時町議会。「たかのす風土館」の本体工事の契約議決等の審議、決定のためである。

■14日(水) 衛生施設組合議会に出席した。

馬に魅せられ50年

＝馬こそ我いのち＝



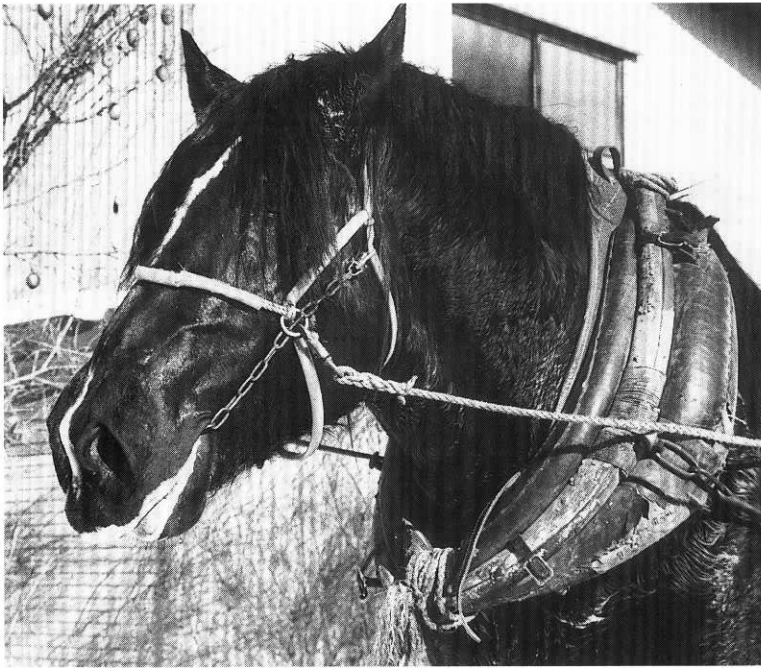
「ダノダアノ（止まれ）バイキノ（バック）」鋭い掛声とともに、雪深い山から馬で木材を運び出している人がいます。太田・長谷川伊久雄さん（五五）がその人。愛馬は、北海道産の土産子のオスで黒々とした青毛（あおげ）。名前はなく「ウマ」でとおっている。長谷川さん宅に来た時はスマートであったが、いまでは体重一トにもなるうかという巨体で働きざかり。

長谷川さんは幼ない頃から大の馬好きで「道楽みたいなもの。ウマのいない生活は考えられない」と笑う。木を引くウマはひづめを立て、たてがみをふり乱し体からしたたり落ちる汗は滝のようです。昭和三十年代までよく見られた光景も、現在では機械化が進み、鷹巣・阿仁部ではこのウマ君一頭だけとなりました。



▲こん身の力で引っぱる姿は迫力満点！ 鼻息を聞いているとまるで蒸気機関車のような感じです。キリッと頭に巻いたハチマキは長谷川さんのトレードマーク

平成2年3月1日



太田 長谷川さん

▲ウマ君は少し気は荒いがなんでも言うことはきく。
「土産子なので「ダ、バイキ」がまだよくわからない」
とのこと



▲ウマ君の体からはモウモウと湯気がたちあがる。
仕事を終え、体を洗ってもらうのが大好き



いつでも奥さんのシズエさんと二人で山に入る。▶
「夜遅くなっても、必ず馬小屋に寄ってくる。ナン
ボ馬が好きなものだか」とシズエさんは笑顔

固定資産課税台帳の縦覧

平成2年度の固定資産税の課税の基礎となる固定資産課税台帳を、次により縦覧いたします。

▶期間＝3月1日から3月20日まで。平日は午前8時30分から午後5時まで、土曜日は零時30分まで、ただし日曜日は除きます。

▶場所＝役場税務課



長谷山包子団長と当町の婦人たち

婦人研修報告

副 団 長 中 島 喜 代

急速な国際化の中で、無知や偏見からくる世界の国々について、より正しい理解と友好を深める「秋田県国際交流を進める婦人の会（Y・P・A）」主催の研修が、一月十八日から二十四日までマレーシアで行われ、県内から三十人、うち当町から七人が参加しました。日本人学校に学ぶ子供の笑顔、現地にとけ込もうとする企業と家族そして、その裏に隠された日本不信、貧富の格差など発展途上国と言われる実態にふれながら、進出企業の現状と交流をおして情報交換と親善をはたしてきましたのでその一端を報告いたします。

“陰”と“陽”が交錯する

発 展 途 上 国

マレーシアの首都クアラルンプールは、雨期とはいえ太陽が真夏のように輝き、街路には美しい花が咲き乱れ、秋田の寒さもすっかり忘れさせられました。

研修一日目は、松下グループの家電工場を訪問。年間販

売額一千億円、従業員千八百人でルームエアコン、除湿器を生産しており、輸出先は北米、日本、中近東などである。

マレーシアに進出している松下グループは八社で、従業員九千七百人におよぶ。この八社で同国GNP三割を占めて

いるが、宗教上からくる生活様式のちがいがから日本とは異なる企業経営のむずかしさがうかがわれた。

社長自ら「企業論理の優先より、雇用の機会と経済協力をするので、戦時中のお返しをするのだ」と話された。

また、日本人家族も福祉施設に奉仕活動を続け、戦争にかかわりのあった地に愛の手をさしのべている話を聞いて胸がいっぱいになった。

人と人との出会い、語り合いは人生のドラマである。マラッカ海峡に浮かぶペナン島、天然の良港をもつこの島は、昔から海賊の本拠地であったところで、風光明媚な海岸線が続き高級ホテルが続々と建設中であった。

一行はバスでスポーツセンターに到着し、なごやかな婦人交流会が開かれた。複雑な民俗構造を問題とせず、一応義務教育制になっているが決して強制もしない。学習能力が低ければ進学できないシステムになっていた。

一番関心を持っていた家庭訪問では、中流家庭二カ所を視察。三世代同居は普通で、特に水上生活家庭はドリリとした泥沼の上にかかけられた板

を渡り案内されたが、家の中は直視できないほどどちらかり放題であった。一方、市内はモダンな高層ビル、整備された道路、チリひとつない公園、年中花が咲き続けている常夏の国マレーシアは、まさに発展途上国の「陰」と「陽」がハッキリ感じられた。

ゴムとヤシがマレーシアの経済基盤であるだけに、いたる所にその林が延々と続く。年中野山には果物が自生して

「日本人はイヤノ」ジレンマの

企業戦士と家族たち

いよいよマラッカ海峡。最近、政治問題で世界の新聞紙

上をにぎわしたことは無関係に、雄大でおだやかな流れ

おり、食べる物には困らないが、商品としては通用しないほど粗末なものが多かった。

マラッカはマレー半島の西海岸に位置し、マレーシアの最古の都市である。栄枯盛衰の長い歴史の流れのなかで、かつては都としてにぎわった海路の要所であり、米は二毛作。消費量の六〇割を生産しているが、ネバリがなく私たちに、とてもなじめない米であった。

が目にはえる。

昔、日本からの「カラユキさん」の船着場だというガイドの説明に、当時どんな思いで我身を売って一家を助け、あるいは誘拐されて「など」と思いをめぐらす時、人身売買が世の中にまかりとおった過去の貧困が、残念に思われた。

バスは次の研修地マラヤ大学に向う。日本の東大に相当する最高学府で、元大館鳳鳴校長で現在マラヤ大学予備教育学部日本教師団長をつとめている榎田先生の案内で、学内を見学。先生は「日本人はウンをつき約束を守らず、ごう慢でイヤな外国人」と受けとめられており「ルッククスト（東を見よう）ノ」というスローガンで日本に学べと言われながらも、一方では付き合いたくない外国人とみなされている」と話していた。

研修の最終訪問地はシンガポール日本人学校。開校して二十五年で、小・中合わせ二千二百人、教師百人で年間四百人も増加ぶりは、日本企業の進出がいかに著しいかということがわかる。

四十五台のスクールバスで送迎し、飲料水が悪いことから子供たちは水筒を肩にかけ



スクールバスで日本人学校に通う児童たち。全員飲料水となる水筒をさげている

停留所に走る姿は異様であった。仲本校長は「国際理解を取り入れた授業は当然であるが、我々教師は一人のよき日本人をつくるため、日夜努力している。三年間で五キもやるほど気が休まず、文部省はもつと海外派遣教師を増加してもらいたい」と語っていたことが印象的であった。

日本に向う機上や鷹巣に返ってから南国の美しい風景、人なつっこい顔、ゆっくりとした人間性など南国の気候風土の中で暮している人々の温かさが、今も心にしみている。これまで何回となく外国を見る機会があったが、今回の

研修から得たものは大きく、過去の歴史の深いわかまりを乗り越えて、外国に向向している日本人が、企業者やビジネスマンとして、また教育者として常に日本人としての自分を忘れず、胸を張って対応する姿に心から感動してきました。

いま私たちはどうだろうー平和と安全な社会制度に守られ、お金があってもどこか貧しくはないだろうかー。「一人のよき日本人をつくるため、日々努力している」と自身に満ちた顔で話された仲本校長の声は今も耳に残っている。



水上生活家庭がズラリと並んでいる。住めば都というが……

「沢口地区町長を囲む集い」

林業センターのステーション増設などを要望

沢口自治会長(佐藤嘉美会長)は一月二十五日に、沢口林業センターで「町長を囲む新春の集い」を開き、自治会長や婦人団体など約五十人が出席して、地域の要望事項や行政全般について活発な質疑がなされました。

最初に佐藤会長が「県北空港建設地区として、早期実現に向けこの会が少しでも前進に役立てばと念じている。町

長を迎え、沢口地区が抱えている問題等みんなで話し合い、地域の結集をはかりたい」とあいさつを述べました。



続いて出川町長が町行政の現状にふれ、「昨年は干ばつで小猿部川水系に大きな被害があった。今後は、かんがいや防災を含めた多面的なダムを検討もされており、体制を整備したい。十六億円ほどかけてゴミ焼却場を建設中だが、焼却後の終末処理を藤株地区に予定しており協力願いたい。四月から三農協による新たかのす農協がスタートしますが沢口、鷹巣町農協についても時間

をおかないで合併にもって行きたい。大野台農用地開発は、五十町歩くらいの県単補助でできる方向性をさぐりたい」と、当面の地域にかかわりのある事項について述べました。

地域からの主な要望事項は次のとおりです。
 ▽県北空港早期実現に向けた沢口地区の推進について
 航空需要が高まり、秋田空港は八十万台にもなっており、海外に出る日本人は一千万人を越えんとしている。県北空港の滑走路の延長は二千、平均用地幅は四百、前後で五四件の所有者であり今後、地上測量など細密調査に入るのので立入検査などに協力願いたい。価格は通常の額があてられるであろう。募金は一世帯五百円平均と思っているが、あまり無理はさせたくない。
 ▽一〇五号バイパスの促進と現況について
 平成四年で全線開通見込みであり、当地としては小森・脇神間の旧国道

から中屋敷地内のT字路までの拡幅が、予算の関係で今回買収になった。農振除外の問題はなかなかむずかしく、具体的な開発計画がないといけない。

▽沢口林業センターのステーション新設と使用料について
 ステーションは利用度など、さまざまな角度から検討し設置しているが、なかなか手がまわらないのが現状であり、言明はさげたい。

使用料は、目的が公的であれば無料、私的行為は有料となり、条例に基づき運用願いたい。

▽石倉山スキー場を町営に
 町営はムリだと思いが、入口からヒュッテまでの道路について改良・舗装を検討したい。

▽地区公民館活動費に助成を
 活動費は中央公民館一本になっっている。公民館活動は非常に幅があり、講座等は自分に帰属するものであるのので、一概に増とは行かない。

▽堂ヶ岱橋ふもとの危険箇所について
 道路幅が狭く、下を流れるセキにフタも考えられないことであった。用地の問題もあり、今後検討したい。

農業技術テレホンサービス

鷹巣農業改良普及所では、農業(生活)技術情報のテレホンサービスを行っています。3月の放送予定は次のとおりですので、ご利用ください。
 ■2月24日～3月2日 <こまちシリーズ④> 病害虫防除
 ■3月3日～9日 生活工夫展を終えて

■3月10日～16日 種子消毒の新薬剤について
 ■3月17日～23日 水稻の育苗用床土について
 ■3月24日～30日 春野菜の主な品種と栽培ポイント
 ダイヤル62-0029で御利用ください。

戦後強制抑留中死亡された方の遺族の皆様へ

戦後、強制抑留され、本邦に帰還された方々等に対しましては、平和祈念事業特別基金等に関する法律に基づき慰労品等の贈呈を行っているところでありますが、この度、新たに、戦後、ソ連又はモンゴルの地域において強制抑留中に死亡された方（帰還途上死亡された方も含みます）のご遺族で、平成元年九月一日において日本国籍を有する方にも内閣総理大臣名の慰労品（書状・銀杯）を贈呈することとなりました。

慰労品の贈呈は、請求に基づいて行うこととしておりますので、平和祈念事業特別基金から請求書類を受取り、必要な書類を添えて「平和祈念

事業特別基金」あて直接送付してください。
なお、請求書類は役場町民課福祉係にもあります。
請求期限は平成五年三月三十一日までです。

請求書類の送付及び問い合わせ先〒112東京都文京区大塚五―三―十三・平和祈念事業特別基金・業務第二課（☎〇三―九四五―四七〇三）

母子健康手帳 交付と妊婦教室

妊婦を対象とした、母子健康手帳、妊婦教室などの日程は次のとおりです。

- 母子健康手帳交付と第一回妊婦教室（必ず本人がおいでください）
- ▽日程〓三月五日、十九日
- ▽受付時間〓午後零時三十分から一時（終了時間三時）

消費者研修会

※場所はいずれも中央公民館保健相談室です。

消費者の会では訪問販売についての講演会を開催します。

- 日程は次のとおりです。
- ▽日時〓三月十二日・午後一時
- ▽演題・講師〓「訪問販売の現状とその対応について」
- 弁護士・津谷裕貴氏
- ▽場所〓中央公民館

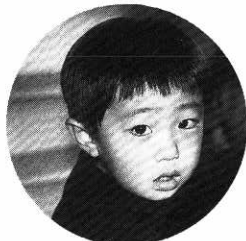
虫歯のない子



愛宕下・沢田 香織ちゃん



糠 沢・鍋沢 里沙ちゃん



糠 沢・鍋沢 圭輔ちゃん

夜間当番医(夜間診療) 日程表 (午後6時30分～9時)

3月	曜日	医療機関名	電話番号
1	木	奈良医院	62-1146
2	金	藤原医院	62-2882
3	土	佐々木産婦人科医院	63-0105
4	日	としま医院	62-1267
5	月	鷹巣病院	62-1210
6	火	盛岡医院	62-1101
7	水	戸嶋産婦人科医院	62-1123
8	木	近藤医院	62-1263
9	金	北秋中央病院	62-1455
10	土	奈良医院	62-1146
11	日	佐藤外科消化器科医院	62-1420
12	月	藤原医院	62-2882
13	火	佐々木産婦人科医院	63-0105
14	水	としま医院	62-1267
15	木	戸嶋産婦人科医院	62-1123

(急患以外は受けません)

町・県民税申告相談日程表

月日	申告会場	申告相談時間		受付時間
		午前9時～正午	午後1時～4時	
3/1 (木)	沢田 業一 林タ 森 (役場会議室)	藤 株	脇 神	午前8時～ 午後3時
■税務署申告者(税務署からの通知者)				
3/2 (金)	沢田 業一 林タ 森	小 森	小摩当、上野	午前8時～ 午後3時
3/3 (土)	二本杉会館	岩谷、二本杉		午前8時～ 午前11時
	坊山会館	湯ノ岱、坊山 四渡		〃
	吉ヶ沢会館	下舟木、吉ヶ沢 深沢		〃
3/5 (月)	三ノ渡会館	明利又、上舟木 松沢、黒森	与助岱、三ノ渡	午前8時～ 午後3時
3/6 (火)	緑ヶ丘担手セ	蟹沢、佐助岱	緑ヶ丘	〃
3/7 (水)	役場会議室	住吉町、伊勢町	元 町	午前7時～ 午後4時
3/8 (木)	〃	材木町、大町	宮前町、東横町	〃
3/9 (金)	〃	花園町、あけぼの町 東上綱、下家下 西屋敷、北家後 西上綱、掛虫向 細 田	米代町、舟見町 新舟見町	〃
3/10 (土)	〃	松葉町		午前7時～ 午前11時
3/12 (月)	〃	旭町、内幸町 幸 町	葉たばこ耕作組合	午前7時～ 午後4時
3/13 (火)	〃			
3/14 (水)	〃	※指定日に申告できなかった人		〃
3/15 (木)	〃			

地域づくりの方向を探り 実践への意欲を高める

栄地区ふるさと講座



浅舞漬物研究会視察

二月四日生涯学習発表交流会が約二百五十人の参加で実施されました。

高齢者、婦人、若妻の学級をはじめ公民館主催の各種講座の受講者、クラブ活動のメンバーの発表から、学ぶことの楽しさ、厳しさが改めて見直された感じでした。

婦人や高齢者の学習熱は年々向上し、その広がりには集落単位の学習グループまで拡大されてきています。

栄地区ふるさと講座

地域づくりの担い手である一般成人の研修を意図した栄地区ふるさと講座が開設されて二年め。熱心な学習者に支えられ、地域の課題にせまる深まりをみせています。

今年度の第一講座(九月)は地域の森林活用について、藤島木材社長・藤島直一氏の講演をもとに、森林経営や木材産業のあり方が話し合われました。第二講座(十月)は地域素材の活用(農林産物)について、特産品開発委員会会長松橋

範夫氏の講話から、漬物など農産物の加工から商品化の方向が話し合われています。

第三講座(十一月)では、秋田の田舎漬で有名になった、平鹿町の浅舞漬物研究会の漬物工場を視察しました。

婦人会、農協婦人部が一体となって、年間売上二億円までこぎつけた、婦人だけの活動におどろくと共に、やればできると言う確証を得て帰ってきました。

第四講座は「健康づくりセミナー」秋大の対島清造氏の講演から地域ぐるみの健康増進について学んでいます。

第五講座(一月)では「地域のよさを探る」をテーマに、地域の森林を活かすにはどうすればよいか話し合いがなされました。鷹巣営林署長柴田晋吾氏の講演は具体的で森林について認識が深められました。

最終講座は二月二十二日、今後の栄地区のあるべき姿について、これまで話し合ってきた話題をもとに意見交換がなされ、当日尾去沢観光(マインランド)代表取締役専務、中村昭吉氏の講演が行われました。

ふるさと 人物伝

九島直吉

一九〇三—一九八三

県道坊沢—鷹巣線沿にある九島木材の先代社長直吉さんは福徳円満な人で多くの人方から信望があった。旧鷹巣町自治隊警察公安委員、商工会長、町会議員などをつとめる。成田喜八町長のよき相談相手で、ものごとを円満に解決する人であった。

長い議員生活の中には大火後の地方事務所移転問題や合併後の七日市奥部分町問題があった。昭和三十三年十二月、森吉町からの誘



いにより、七日市奥部の人方から分町の陳情書が出されたとき、町会議長の彼は「分町阻止委員長」となり現地におもむき、何日も泊りがけで「新町建設計画」を住民に説明し、成功することができた。

直吉は明治三十六年、綴子村田中、九島久蔵の長男に生れる。綴子小学校卒業、農業に従事するが、やがて町に出て運送業に務める。物資の動きに興味をおぼえ

いろいろなことを体験した彼は昭和十一年、リング箱の仕組板製材を始める。数年後建築材となり戦時中の国策で一時統制されるが、戦後は従業員八十名にまで大きくなる。昭和三十七年長男の現社長にバトンタッチ、自らは不動産業を営む。彼はどんなときでも他人を責めることをしない人であった。九島木材社員OB会(約九〇名)は毎年開かれ、前社長の人徳を偲んでいる。昭和五十八年没八十歳(三日田吉治、佐藤恒治、長男 九島武雄談より)

文 長崎 久



「大太鼓の里」の旗手たち

「名もなき星たちの熱き心を太鼓にのせて、をテーマに2月12日、広域交流センターで和太鼓保存会「鼓道」の合同発表会が行われ、9団体から80人が参加。八丈太鼓や夏まつり太鼓など10種類以上の創作太鼓を披露し、訪れた約2百人の観客はみごとなバチさばきに酔いました。「大太鼓の里」を支えるエネルギーが感じられました。

「保革逆転なるか」「消費税は」を最大の焦点とした、第39回衆議院議員総選挙が2月18日に行われました。90年代を占う選挙として注目を集めました。自民党が安定多数の286議席を占め、社会党も136と大躍進したものの、他の政党の不振が目立ちました。関心を集めたわりに当町の投票率は伸びず、77.5%と県内町村で最下位でした。

関心がなかった総選挙？



メルヘンin火祭りかまくら

幻想的な小正月行事として知られている「葛黒火祭りかまくら」が2月9日に行われました。2百年以上の歴史そのままに、10ほどのナラの木にワラや豆ガラ、サワラなどを巻きつけ点火。勢いよく燃えあがる炎は夜空を焦がし、祭は最高潮。

伝説の人物権五郎の霊を慰めようと「かまくらの権五郎〜！」と口々に叫んでいました。



めっきり春らしくなりましたが、中央公園にはシベリアに帰る準備をする8羽の白鳥の姿が見られました。まだ灰色の幼鳥も見られるこの一家は、小川が流れ込み雪が積らない水辺で水草の根をついばみ、湖面に優雅な姿を浮べています。場所はバイパスから入った町道沿いで、人目を気にするでもなく旅立ちが近いことが感じられました。

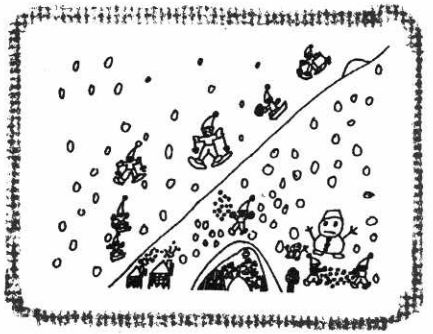
“白鳥の湖、



の広場



南鷹巣保育園
ちば だいすけちゃん(6歳)



人はよく焼きものを「火と炎の芸術」と言いますが、私の場合にはそんな大袈裟な事ではなく、公民館の陶芸講座を知って、せめて「グイ呑み」位は作りたいと思ったのがきっかけでした。
私自身農家のため、土をい



住吉町
五代儀不二男さん(55歳)

土と炎と共に 今月のテーマ『私の生涯学習』

対談 わたしたちの意見



蹄鉄(ていてつ)

馬のひづめにつけた

馬のひづめの底に装着し、ひづめの磨滅、損傷と滑走を防ぐ鉄具蹄鉄屋の主人が、前足を脇にかかえ、熱い蹄鉄を打ちつけ、その臭いが広がっていた。蹄鉄をつけた馬の足どりは力強かった。

(松葉町・佐藤 富雄さん)

じる事は楽しく、また焼きものが農耕民族によって始められたと言う歴史からも、あの田園の底にある粘土から、素晴らしい焼きものが出来る事が驚きでした。
焼きものと云えば、土を練り、型を造り、釉薬をかけ、窯で焼けば出来上りと思っていましたが、焼きもの程正直なものはなく、一つでも手抜きをすると、ひびが入ったり、割れたり、思った色が出なかったりと、最後の窯出しでないと結果が判らないのが焼きもので、それがまた、ものすご



わたしの自慢 「栗田賢一爆笑ライブ」を企画

品類青年部・宮腰文義さん(39歳)

私達品類青年部は、戸数十八戸で十人の若者がおり、毎年お盆には、子供からお年寄りまで集まり、カラオケ、ピヤパーティ等で住民間の親睦を深めております。今年、我々青年部結成十周年を迎えるにあたり、「なにかをやろう」と言うことで、みんなが楽しめる「ものまね」を企画し、最終的に「栗田賢一」に決まったのが昨年十月でした。タレントが決まったものの、予算の面、チケットの販売等いろいろな問題が続出し「この少人数ではとても無理では」と思い、継友会の協力も得て「この小さい部落の若者もやればできると言うことを見せてやろう」「町興しの起爆剤となれば」と赤字覚悟で挑戦することになりました。いろいろな不安のなか、チケットの販売も順調に進み、「やればできる」と心を一つにし、完売となったあの気持ちには口では言い表わせないものでした。
当日は早々に満席になり、予想以上の客とノリに、今までの苦労が吹きとび「ヤッター」と心の中で叫びました。長い準備期間の苦労もみんなの協力で盛会に終えたことは、我々にとって、より一層の結束と大きな自信につながりました。



南鷹巣保育園
こづか ともみちゃん(6歳)



みんな



町民になりました みなさんよろしく!



主人は銀行員で県北は3回目の赴任です。大きい町で、商店街が整然としているのにビックリ。市日が近く立つので楽しみです。二人の子供もすぐ学校になじみホッとしております。公民館講座の盛んな所と聞いていますので、是非参加したいですネ。
柳原博喜さんご一家(秋田市からの転入です)
元町13-1

い魅力でもあります。
今私達は創造性豊かな焼きものを、多くの仲間と学び続けたいと頑張っ居ります。
心の若さを保つために



松葉町 嶺脇 桂子さん(54歳)

私は月二回、藤蔭流の踊りの教室に、通っております。運動不足の解消と、体を動かす事が好きですので、誘われるままに入り三年程になります。

夕食後の二時間、丸くながちな背すじを注意されなが

ら、着物の裾さばきに、心よい満足感をおぼえ、肌に着つすらと汗ばむほど踊ります。学ぶ喜びと充実感、そして、教室の皆さんの和気あいあいの雰囲気は、最高のストレス解消だと思っています。ステージに上った時の、あの感激と緊張感は、少女の頃の自分にもどります。人生まだまだこれからです。
心の若さを保つためには、創造的な意欲と、やる気、そして何にも関心を持つことではないでしょうか。仕事の都合で休みがちな私ですが、出来るだけ出席して、心も体も若々しく、生き生きと、年を重ねられたら、と思うこの頃です。

昭和30年代後半の幼児検診光景である。丸々と太った子供たちはみんな母乳で育った。いまではオムツは布から紙へ、母乳からミルクと変わり、「ハナ」をたらしめている子供は一人もいない。写真のお母さんたちが生まれた頃でもある。



たかのすの昔

おしらせ



一線美術運営委員 九島寮二氏

三月の健康相談

三月の健康相談は、次のとおりです。

成人健康相談は十四日と二十八日です。時間は午前十時から午後三時までです。

午前中は血圧測定のほか尿検査、体重測定など、午後は慢性病予防教室で、ビデオによる健康教育「老人ボケを防止」について行います。

リハビリ学級は十六日です。

在宅脳卒中後遺症の方を対象に行います。時間は午前十時から午後三時までです。
※場所はいずれも中央公民館保健相談室です。

四力月児健康診査、七力月児健康相談と離乳食指導は二十日です。

対象のお子さん、受付時間などは次のとおりです。

▽四力月児健診 十一月生まれ、受付時間は午後一時から一時三十分までです。

▽七力月児健康相談と離乳食指導 八月生まれ、受付時間は午前九時三十分から十時まではです。

母子健康手帳とバスタオルを忘れずにお持ちください。場所は鷹巣保健所です。

二歳児歯科健康診査は二十八日です。

対象は昭和六十二年十二月、六十三年一月生まれのお子さんです。
受付時間は午前十時から十

時二十分、母子健康手帳、問診票、歯ブラシを忘れずにお持ちください。

場所は中央公民館ホールです。

三歳児健康診査は十五日です。

対象は昭和六十二年一月、二月生まれのお子さんです。

受付時間は午後零時四十分から一時十分まで、母子健康手帳、問診票をお持ちください。場所は鷹巣保健所です。

育児相談は二十二日です。

子育てについての悩み、子供の健康発達など不安を持つ母親を対象に行います。

受付時間は午後一時から一時三十分まで、母子健康手帳をお持ちください。

場所は中央公民館保健相談室です。

献血にご協力 してください

献血車が次の日程で巡回します。

献血は気軽にできるボランティア。血液を待つ多くの患者さんのために、ご協力をお願いします。

三月九日(金)

香典返し

このほど次のかたから、香典返しにと町社会福祉協議会へ寄付金がありました。

ご芳志に感謝いたします。

▽掛泥 村上清蔵さんから亡母シミさんの香典返し

▽今泉 仲村貞美さんから亡父彦治郎さんの香典返し

▽元町 岩本栄子さんから亡夫憲夫さんの香典返し

▽大沢 田村広士さんから亡母ユキエさんの香典返し

▽旭町 藤原孝一さんから亡父幸次さんの香典返し

▽旭町 畠山イクさんから亡夫茂さんの香典返し

▽上舟木 鈴木幸光さんから亡父四郎治さんの香典返し

▽深沢 佐藤貞夫さんから亡長男貞幸さんの香典返し

▽本郷 長岐英雄さんから亡祖母スエさんの香典返し

▽黒沢 大川宏さんから亡父和三郎さんの香典返し

慶弔だより

2月1日〜15日

一敬称略一

誕生おめでとうございます

畠山 歩(仁志) 長女 舟見町

藤島 健隆(弘行) 長男 新習町

小松 和樹(正彦) 長男 綴千町

佐藤 久美(一義) 長女 妹尾館

高橋 駿(智) 長男 新田中

古閑 直哉(直樹) 長男 苅原の町

浅村 隆太(博幸) 長男 街道町

藤嶋沙緒理(和政) 長女 太田

三沢 翔子(正悦) 二女 新田中

佐藤 達也(重一) 長男 田子沢

村上 弘美(修美) 二女 堂ヶ岱

畠山 侑大(平正) 二男 前山

二人の前途を祝福いたします

柴田 保 東上綱

堀内 清香 下町

おくやみ申しあげます

大川和三郎(77歳) 黒沢

泉 ミナ(90歳) 藤株

柴田 松蔵(83歳) 材木町

澤田 与吉(85歳) 前山

伊藤 ミチ(71歳) 旭町

長岐 スエ(90歳) 七日市

成田 タカ(69歳) 旭町

成田 美穂(76歳) 元町

照内 フヨ(82歳) 下町